

# 令和5年度学校関係者評価 報告書

2024年4月6日

専門学校日本デザイナー芸術学院

評価期間

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

2024年4月6日

## 学校関係者評価委員会

### ■学校法人敬道学園

校長：成 光雄

事務長：大本 周平

教務長：山内 雄司

教務：下雅意 義規

石川 優子

鈴木 ルリ

大坪 智世

岩田 祥

### ■外部参加者

・株式会社 J S コーポレーション

中部支社 支社長：池内 裕史（イケウチ ユウジ）

・日本語学校 I.C.NAGOYA

校長：二川 健司（フタガワ ケンジ）

・愛知芸術高等専修学校

総合芸術学科教務主事/進路主事：林 真利子（ハヤシ マリコ）

・株式会社 クイントエッセンシャル

代表取締役：山本 武司（ヤマモト タケシ）

・株式会社ケイズコーポレーション

デザイナー（卒業生）：田中 敦実（タナカ アツミ）

### ■校長あいさつ ▶校長：成

自己評価報告書は一定の書式に沿っており、文章では正確な評価や判断が伝えづらい部分があるので、どこまで正しく公表できるかを判断いただきたい。

文章だけでは説明しきれない、現状と見通しを説明します。

## ■自己評価報告書 ▶校長

### ○日本デザイナー芸術学院

- ・P4：創立よりある教育理念について。

時代や国際的な基準に合わせて表現は多少変わっているが理念は一貫している。課題と改善では、コロナ禍に関する事象は完全になくなったわけではない。しかし、留学生の募集活動は通常に戻りつつある。他にはコロナ化を経て通信授業の見直しなどが挙げられた。

- ・P5：学校運営については特に強調する箇所はなし。

- ・P6：就職率、退学者、卒業後のキャリア形成の自己評価について。

課題としては、分野によって退学・休学者がでるコースもある。要因は心の問題もあるが、経済的なものが増えている。その中で奨学金利用者が増えているおり、書類手続きの関係上、学生も職員もやること増加傾向にある。2022年より各コストが上昇傾向にある。学費は継続しているが、物価高騰をどう運営に反映させるかが課題。

- ・P7：学生支援について。

就職の支援制度の整備は時代に合わせて行うものなので十分なことはない。学生が社会人になって働くことと、学生であったことのギャップが大きくなっていると感じる。具体的には、仕事をするへのイメージができていないことが挙げられ。対策としては、講師と連携して、就職情報やイメージを伝えたい。また求人票や就職情報を見ない子も多く、今はLINEを運用して求人票を共有するネットワークを構築している。電子化することで一元化したデータをどこでも確認できるので、就職への窓口を広げることができ効果があった。施設設備については、wifi環境、特にスマホ・PCなどに対してインフラ設備はある程度整ったが、さらに拡充するにはコストがかかる。現状どの教育機関もこの問題を抱えている。

- ・P8：学生募集について。

後に大本より説明。教務面からみると金銭的な支援のアプローチは必要。

- ・P9：国際交流について。

どの学校も、どう選んでもらうかの課題は共通している。留学生に対してのポジションを確認することは必要。

- ・P10：総評

2024年度は映像系のコースが伸びた。名称を「動画クリエイターコース」に改めた。時代に合わせた分かりやすい表現は入学対象者へ響いたよう。また、「こども学科」を予定より前倒しで設立。PR期間が少なかったため人数は少ないが、次年度はこの1年で得た知見を活かしたい。

## ○日本マンガ芸術学院

日本デザイナー芸術学院と同じ方針で運営しているので類似点が点が多い。

### ・P4：教育理念について

2011年創立から一巡し、日本デザイナー芸術学院との違いは確立してきた。エンタメに特化しているため、就職を目指す日本デザイナー芸術学院との違いがある。卒業して何か仕事をするのは共通している。学生の人生を考えれば、チャレンジして上手くいく上手くいかないはあるので、それをあらかじめ伝えていきたい。

### ・P6：教育成果について

就職率では表現しきれないところはあり、マンガコースであればマンガ業界に就職ではなく、ライフワークの中でプロを目指す。プロになる生きがいや、年収には満たなくてもお金を稼ぐことと仕事と一緒に生きていくことも念頭に置いて、学校が打ち出す内容と現実のギャップが出すぎないようにしている。

### ・P9：留学生について

日本デザイナー芸術学院と共通点は割愛。今後は提携校や海外校などを通じて短期留学の受け入れが増えるだろう。留学生はアニメや漫画が好きで、卒業後も日本で働きた人向けの「日本語&ビジネスコース」を設置した。

### ・P10：評価結果

2024年度より「コミックイラストコース」・「小説クリエイトコース」が3年課程に変更。「コミックイラストコース」は2,3年課程で幅広いニーズに対応。「小説クリエイトコース」は人数が少ないが、小説を書いてデビューするには時間が必要で、3年課程に変更。専門学校も2年課程が主流から、3年課程主流になってきた。それはニーズが大きく、教務的に見ても教育の時間がさらに欲しく、その点が合致した結果。今までは早く社会に出るのが専門学校だったが時代に合わせて変化してきた。学生生活の時間が延びるにあたって、ハラスメント防止ガイドラインを作成し、学生・職員・講師などの関係者に共有。豊かな学生生活を送るために作成。

## ■活動実績の報告 ▶教務長

### ○教育活動その成果（受賞報告）

金城学院大学がコンペ実績上がっている。業界の人にも注目している。

OACは全国区のコンペで業界の方から声もかけられたので、コンペ実績は今後も強化していきたい。

マンガコースでは、在学中のデビュー連載を持てたことが挙げられる。また、Webコミックの間口が広がったことで、マンガだけで食べるのは厳しいが世の中の人に触れる機会は増えた。

○就職報告 ▶クリエイティブ系

伝統ある企業にも多く輩出できたが、今回はインハウスデザイナーが増えた。愛知ダイハツ株式会社をはじめ、各企業の広報部の強化を感じた。セルフブランディングに力を入れる企業が増えた影響か、グラフィックデザインコース卒業生の1/3を占めた。

イラスト系のコースでは、2022年度に株式会社サイゲームス主催のコンペで受賞し、内定に至った。

○就職報告 ▶エンターテイメント系

声優タレントコースは募集停止しているが在学学生はいる。就職とはニュアンスが違いプロダクションへの所属が目標。所属が決まる=声優としての活動ができる。しかし、所属までに至らず、養成所でレッスン生としての活動で2名預かり所属に。所属の2段階前だが仮所属をすることができた。結果として東京のプロダクションで2/2名が実績を出せた。

○就職報告 ▶保育系

卒業生8名中、全員が保育の資格を活かせる職場で就職ができた。今後は新しい2年課程も引き続き頑張る指導していきたい。

■産学協同

○デザイン系 ▶教務長

産学協同は企業がコスト・リスクを背負うので、学生考案だからといって簡単に商品を出すことは難しい。しかし、公開はまだできないが2つの商品化が決定。イラストデザインコース考案の商品が近日名古屋城のお土産屋さんで販売が決定。

○エンターテイメント系 ▶教務課

実習も兼ねてミッドエフエムでラジオ番組運営を実施。コロナも明けたことで企業より声がかかり、イベント司会なども務めた。卒業生からもアシスタントの依頼があるなど、今までにないケースもあった。新たに現場での人間関係ができたことで次の依頼も決まり、実績を残すことが次の仕事につながることを実感した様子だった。

パーソルテンプスタッフによる声優を目指す学生を応援する企画で、社内コンテンツのオーディションを実施し、2件の合格につながった。今後も積極的に参加したい。

■評価委員による質疑応答

Q. 愛知芸術高等専修学校：林様

コンペは職員が絞って実施しているのか、学生が選んでいるのか？

#### A. 教務長

基本的には講師が決めている。コースによってはコンペに出品する課題もあるが、報告書のものは講師が用意。マンガコースは個人で決めて講師とともに出品。

#### A. 校長：成

ジャンプに出したいなどの希望モチベーションも大事だが、学校で学ぶ意味の一つとして、自分の特徴や戦略などを客観視できるように、講師が相談を受けたうえで、学生の特性を生かした方向性を導き出す。本人の強い希望があれば、その媒体に合わせた作品作り指導をすることが本人のポテンシャルを引き出す要素にもなる。それが強い学校は実績が伸びるが、力はあれど明後日の方向に努力をしてしまうともったいない。講師・教務の見識も問われる。

#### ■留学生について ▶教務課

2022年度、旧映像デザインコースでスリランカ出身の留学生が、ブライダル系のカメラマンとして義人国の在留資格を取れた。そして、2024年度「日本語&ビジネスコース」を開設し、学内で説明会の実施。ウズベキスタン・ネパール・ベトナム・ミャンマー出身者が来校。最終的には42名が入学予定。説明会の時間通りに来ない、学費の問い合わせ等の対応しながらこちらもブラッシュアップしていきたい。学校としても日本語学校との関係を強化できた、日本語&ビジネスコースはI.C NAGOYA様と協力してカリキュラムを作成。日本語N2の取得を目指して検定対策、グローバル検定にもチャレンジ。最終的には国内での接客や製造業で就職を目指す。

日本デザイナー芸術学院では、「国際メディアデザインコース」から、「国際デザインビジネスコース」に名称変更。日本語とデザインを学ぶコースで2024年度は12名の入学予定。その他には、動画クリエイターコース・マンガコースで2名が日本人共学コースに入学予定。

#### ▶事務長

開設前の募集段階で想定のカリキュラムで募集活動を行っていたが、年度の途中の夏から募集をかけ、最終的に入学者は42名。留学生のキャリア・スキルアップをI.C NAGOYAと協力して行いたい。募集活動については説明会に予約をしても来ない、遅れる、日本語が通じないなどあったが試行錯誤していきたい。

#### ○学生支援（奨学金） ▶教務課

日本学生支援機構の給付奨学金は今年度も変化はなく、例年通り支援を行った。昨年度から引き続き40名以上が貸与・給付奨学金の採用が決定。今年度の奨学金使用者は120から

130名を想定。全学生の1/4ほどが利用。3年課程は半日で授業が終わるので、奨学金利用者が多い。次年度は多子世帯を支援する区分の拡充が行われる。今までは所得ベースの奨学金だったが、子供の人数を基準に拡充予定。したがって、次年度は奨学金利用者数がさらに増える見込み。次年度も粛々と説明会・手続きを行う。

○学生支援（キャリア支援） ▶教務長：山内

校内企業説明会やオーディション、合同企業説明会を実施。このイベントで進路が決まった学生も多くいた。また、就職活動オープンチャットを作成し、学生や講師が参加・連携して内定を取っていた。ゲスト講師による特別授業や出張編集部も実施予定。

## ■質疑応答

Q. 事務長

求人数はどれくらいあるのか？

A. 教務長：山内

エージェントからの照会もあるので、正確な件数の把握は難しいが、デザイン系の求人は倍以上に増えた。確実にコロナ禍よりは増加した。

Q. 事務長

従来の職種や求められるスキルなどに比べ違いはあったか？

A. 教務長

「T字型人材」と呼ばれるオールラウンダーでありながらも、特化したスキルを持っている人材が求められている。インハウスデザイナーは媒体に合わせて幅広く表現するスキルが求められる。

Q. 事務長

デザイナーの募集に苦勞されていたそうですが、現在の採用状況はどうか？

A. JS コーポレーション：池内様

デザイナーの募集は本社が行っており認知していない。全体の募集状況は良い傾向にある。

Q. 事務長

業界が求めている人材と、当校に来る求人の実態は？例えば大学との差はあるのか？

A. クイントエッセンシャル：山本様

他校との違いはない。当校には業界に関わっているプロの講師が多く、その講師にも学生の人材紹介依頼が来る。こういった学生が求められているのかは、コロナ化と比べ変化は

なし。専門的に特化したとびぬけた人は必要だが、リテラシーを持った人格者は共通して必要。どの業界もコンプライアンス重視の時代になって、肩書だけではなくコミュニケーション能力が必要となった。一般的なりテラシーがあったうえでのスキルが必要。

Q. 事務長

リテラシー教育について、授業でどの程度扱うのか？

A. 校長

企業の意向は分かるが、専門学校でリテラシー教育をするのは困難な面もある。道徳や公共性、コミュニケーション、家庭のしつけ的なことができているならば就活でも効果があるだろう。可能であればそのあたりも伝えていきたいが、「授業」で多くの時間を割くことは難しい。また、一つ間違えるとハラスメント・人格否定にもなりかねないので難しいところではある。全寮制の学校で集団生活することは効率的だが、今の時代では厳しい。

Q. 事務長

就職活動の際によく聞かれた質問は？

A. ケイズコーポレーション：田中様

学校で何をしているのか。ポートフォリオを見て、具体的に何をしたのか？なぜこのデザインになったのか？はよく問われた。自分の作品としてだけではなく、なぜその形になったのかを消費者にどう伝えるのかをよく聞かれた。

Q. 事務長

学生時代にやっておけばよかったこと？

A. ケイズコーポレーション：田中様

デザインを作ったあとに、商品のコンセプトを社内プレゼンしても説明するのが難しかった。「伝える力」を身につける授業はより必要だった。

教務報告は以上

#### ■学生募集 ▶事務長

2023年度募集で学生数が減少。2024年度は留学生の効果もあり増加した。

○日本人学生

・日本デザイナー芸術学院の出願者数

2023年度：86名 → 2024年度 95名

・日本マンガ芸術学院の出願者数

2023年度：66名 → 2024年度 63名

○留学生



・日本デザイナー芸術学院の出願者数  
2023年度：2名 → 2024年度16名

・日本マンガ芸術学院の出願者数  
2023年度：0名 → 2024年度62名

次年度の募集では留学生が同じように集まるかは定かではないため、日本語学校との連携を強化して取り組みたい。

また無認可校の進出を懸念しており、名古屋にも進出が増えているので認可・無認可の違いを来校者・ガイダンスで説明。2025年度もこの違いを打ち出していきたい。

その他には、体験入学の敷居を下げるために体験入学の紹介冊子やSNSを充実させた。

## ■意見交換会

### Q. 教務課

イラストの表現の幅が様々なメディアで広がった。最近はイラスト分野で進学する目的が浮ついている傾向にあり、マンガ家やデザイナーを目指すより抽象的な感触。高校ではイラスト分野に進みたい生徒は最終的な職種選択の指導はしているか？

### A. 愛知芸術高等専修学校：林様

高校でも課題になっており、「絵を描きたいから」が理由としては多い。高校生に向けても業界の求人実態等の説明は効果がありそうなので、上級学校の助けが必要である。

### Q. 教務長

AIを使っているか？

### A. ケイズコーポレーション：田中様

現在はデザインだけではなく、商品も作っており、その際にチャットGPTを使って商品名のきっかけとなるパーツを探すことはある。商品の特徴を入力して出力された結果を自分でかみ砕いて使用している。

## ■総評 ▶校長

具合的な目標を持っている学生は、今までと変わらず後押しや手伝いをする。そうではない人も増えてきたが、10代の経験で将来の職業や業界、自分のできることなどの答えが出ない場合もある。思い込みに沿って生きるのも悪くはなく、良い人生を過ごしたいといういは人として当然。必ずしもマンガやイラストが仕事として「生きる糧を稼ぐ存在」でなくともよいが、それを「生きる糧を稼ぐ存在」に導く指導ことはできる。兼業作家であっても、

生きていく上では労働は避けられない。昔はプロへの入り口は少なく闇雲に探るしかなかったが、現在はそうではない入口が増えた。仕事=生きがいだけでなくよい。今の保護者はそうではないことも実感している。イラストレーターになりたいのか自問自答により感覚的に理解し、一概に否定しないことも進路や生き方の指導の在り方ではないか。就職だけでなく、人生を考えた時に閉塞感なく生きられる術を提案できるのではないか。

また「日本語&ビジネスコース」について、マンガなどの学校なのに、クリエイティブ職に就かなくてよいのかと疑問はあった。しかし、「文化・教養」の定義には外国語も含まれており、教育目的のひとつでもある国際的な視点を当校が得意とする分野を生かして勉強することができる。日本の価値観や文化を生かして日本語の勉強をし、日本での就職を支援したい。私学振興室に当校の留学生のニーズは客観的におかしいのか確認したが、問題はないとの回答があった。スキルを身につけて本国で豊かに暮らすための支援もでき、分野違いではなく、学校の特性を生かした教育を実施している。

以上。